

令和 7 年度第 2 回社会保険等検討委員会議事録

日 時：令和 7 年 12 月 22 日（月）19：00～21：00

場 所：ウェブ会議

出席者：理事長 長谷川利雄

社会保険等検討委員会

副理事長 奥村栄次郎、松原三郎、五味渕聡志

担当理事 金渕隆人、大瀬戸政司、寺門 淳

委 員 長 丸山晴久

副委員長 柴田正人、岡田祐司

委 員 中村 尚、子田純夫、西能 健、坂田賢一郎、清家 健

アドバイザー 新井貞男、山田明彦、橋口兼久

外内保連 WG

担当理事 神藤佳孝、鬼木泰成

委 員 長 平泉 裕

副委員長 平澤直之

委 員 村井邦彦、東 秀隆、三橋 繁、田辺秀樹、中川種史、
丸山晴久、峯崎孝俊

欠席者：社会保険等検討委員会

委 員 平井良昌

外内保連 WG

アドバイザー 藤野圭司

挨 拶：

1. 理事長・副理事長挨拶

長谷川利雄理事長、奥村栄次郎、五味渕聡志、松原三郎各副理事長から挨拶があった。

- (1) 奥村栄次郎副理事長からは、運動器の健康を増進させ健康寿命を延伸させる議員連盟（以下「運動器議連」という。）の会長に上川陽子衆議院議員が就任したことが報告された。

上川陽子議員は、医療以外の分野でも活動の幅が広いことから、運動器関連課題への関心を高めるため、今後は積極的な働きかけが必要であるとの認識が示された。

- (2) 松原三郎副理事長からは、令和 8 年度診療報酬改定において、外来・在宅及び調剤報酬の適正化により全体で-0.15%となり、多くの医療機関に影響が及ぶ可能性があるとの見解が示された。

整形外科領域への影響は比較的限定的と予測されるが、引き続き情報収集が必要であると述べた。

2. 担当理事挨拶

金渕隆人、大瀬戸政司、寺門淳各担当理事から挨拶があった。

補正予算による補助金交付で一定の改善が見込まれること、また診療報酬改定に伴う整形外科への影響について検討が必要であることが述べられた。

理事会審議付帯事項：

1. 二次性骨折予防継続管理料の実態調査（第3回）

金淵隆人理事は、管理料1の算定率が約30%にとどまっている要因を明らかにするためのアンケート案について報告した。

算定しない理由や術後転院先などを調査項目とし、約3か月間実施予定で理事会に上程することとした。

なお、今後は病院医師への個別確認や、有床診療所への調査も検討する。

委員会決議事項：

1. 第39回JCOA学術集会（兵庫）シンポジウムについて

次のとおり決定した。

(1) シンポジウム名

令和8年度診療報酬改定が整形外科診療にもたらすインパクト

(2) 座長

中村尚委員、子田純夫委員

(3) 演題・演者

- ・ JCOA レセプト調査から見た整形外科診療所の現状
金淵隆人理事
- ・ メディアス調査の報告
丸山晴久委員長
- ・ 令和8年度診療報酬改定の概要
神藤佳孝理事
- ・ 診療報酬改定の詳細（基本診療料・医学管理料・検査・画像・投薬・注射）
柴田正人副委員長
- ・ 診療報酬改定の詳細（リハビリ・処置・手術・麻酔）
坂田賢一郎委員

2. 次回委員会について

今回は、令和8年3月29日（日）11時から、対面形式で開催とすることを決定した。

委員会報告事項：

1. 令和8年度診療報酬改定要望に係る厚労省ヒアリング報告

ウェブ形式で実施され、厚労省技官3名によるヒアリングが行われ、各要望は持ち時間約10分で説明された。

(1) 拡散型圧力波疼痛治療術

東秀隆外内保連WG委員は、提出資料以上の質問はなく、議論は限定的であったことを報告した。

(2) 二次性骨折予防継続管理料：対象疾患の拡大

丸山晴久委員長は、大腿骨近位部骨折に加え、脆弱性骨粗鬆症・椎体骨折への拡大と、外来骨粗鬆症患者へのリエゾン介入に対する評価の必要性を説明し、厚労省からは、臨床介入の実施状況、DPC 包括の問題、治療継続率評価が論点であるとの認識が示されたことを報告した。

(3) 超音波骨折治療法の若年者下腿足部疲労骨折への適応拡大

神藤佳孝理事は、若年者（20～22 歳程度）の下腿足部疲労骨折に限定した要望であることを説明し、厚労省からは、症例数やエビデンスの規模、医学雑誌掲載実績が課題として指摘されたことを報告した。

(4) 二次性骨折予防継続管理料 2：算定施設案件の緩和

松原三郎副理事長は、有床診療所が回復期機能を担う地域実態を説明し、結果待ちの状況であることを報告した。

(5) 今後の課題について

今回のヒアリングを終了し、事前準備の充実、補足資料作成、予演会実施の必要性が課題として共有された。

2. 令和 8 年度診療報酬改定の医療技術評価分科会の進行状況

寺門淳理事は、第 1 回医療技術評価分科会での整形外科関連要望項目の通過率は全体で約 88%であったと報告した。

拡散型圧力波疼痛治療術は未通過であったが、ロコモ・フレイル指導管理料等は通過している。

3. 令和 7 年度 JCOA 保険審査委員会議報告

令和 7 年 9 月 6 日、品川プリンスホテルにて開催（参加 82 名）した。

ラジオ波焼灼療法や体外衝撃波疼痛治療術に関する審査上の留意点が報告された。

合同講演では、厚労省・木下栄作参事官より医療 DX 政策について講演があった。

4. 全国整形外科保険審査委員会議報告

令和 7 年 9 月 7 日に開催（参加 371 名）された。

ウェブ参加時のオーディオ接続に関する課題が指摘され、次回は事前説明を行うことを確認した。

5. 令和 8 年度保険審査委員会議開催予定

次のとおり報告された。

(1) 令和 8 年 9 月 5 日（土）：JCOA 保険審査委員会議

(2) 令和 8 年 9 月 6 日（日）：全国整形外科保険審査委員会議

6. 外保連報告

手術委員会における術式改定・廃止及び技術料と手術時間の課題について報告された。

7. 内保連報告

今回は特になし。

8. 令和7年度レセプト調査報告（2025年4月～7月）

参加施設数は、全体的に減少傾向である。

外来では無床診療所で微増、有床診療所で増加、病院外来は減少傾向であった。

入院では有床診療所で増加、病院では減少傾向であった。

9. メディアス調査報告（第20報）

整形外科医療費は、1兆571億円で内科に次いで2番目に多かった。

施設数は増加しているが、都市集中と地方空白の二極化が懸念される。

薬剤費高騰に対し利益率が伸び悩んでおり、厚労省への効果的な発信が必要とされた。

10. 第34回医療用から要指導・一般用への転用に関する評価検討会報告（令和7年11月21日）（スイッチOTC評価検討会報告）

OTC化候補成分について各学会への意見聴取が行われ、今後の意見照会に備えた論理的反論を整理する必要性が示された。

11. 日整会社会保険等委員会報告

不採算品薬価再算定や医薬品供給停止等の要望が現場に反映されにくいという課題があり、情報共有ルート整備の必要性が示された。

12. 令和10年度診療報酬改定スケジュール

令和8年7月に提出する要望項目を絞り込み、9月に外保連要望項目アンケート、12月に内保連意向調査を予定していることが報告された。

13. 運動器議連報告（第16回）

令和7年12月3日に開催された。

上川陽子議員が議連新会長に選出され、JCOAからはロコモティブシンドローム対策と診療報酬改定要望書を提出した。

（文責：委員長 丸山晴久）